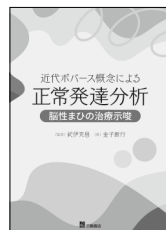


紀伊 克昌 (監), 金子 断行 (著)

近代ボバース概念による正常発達分析—脳性まひの治療示唆

辻 薫

(大阪人間科学大学, 作業療法士)



創始者のベルタ・ボバース先生 (PT) から直々にロンドンで学び、日本にボバース概念を導入された紀伊克昌先生 (PT) が本書を監修されている。紀伊先生は、2代目ロンドンボバースセンター所長 (故) ジェニファー・ブライス先生 (PT), (故) ジュディス・マーレー先生 (OT) と共に、脳神経科学の最新知見を基に、最近の周産期医療と脳性まひの臨床像の変化に対応した治療実践に成功し、近代ボバース概念 (Current Bobath Concept) へと進化・発展させてくださった。

本書は、紀伊先生によってモデルチェンジされた2014年以降の「近代ボバース概念小児領域基礎講習会」(日本ボバース研究会 HP 参照) の正常発達分析の講義と治療実践へ応用するための臨床考察について、大変わかりやすく解説されている。紀伊先生が監修され、著者である講習会インストラクターの金子断行先生 (PT) が、図や写真を豊富に取り入れ、NICU 退院後の乳児や痙直型四肢麻痺学童児の治療場面も具体的に紹介し、すぐに役立つ治療モデルやテクニックだけでなく、多くの文献からその理論的根拠を引用・参照し、説得力のある専門書とし

て成立させている。

一方、「近代ボバース概念とそれに基づく正常発達分析」に、本書で初めて出会う方々も、本文で説明されている多くの専門用語が、すぐにコラムとして抜き出され丁寧に解説されているため、混乱したり躊躇したりすることなく読み進めていくことができる。

近代ボバース概念が説明する、「なぜ」そのように発達するのか、「どうしたら」次の発達につながるのか、姿勢・運動制御のコンポーネントとヒトの発達との相互作用について、徹底して追及する筆者の熱意と受講者本位の指導者としての経験値が伝わってくる。

正常発達分析の視点は、二足直立歩行と道具や言葉を操作するヒトを対象としたリハ専門職だけでなく、医師、看護師、多職種にも多くの気づきを提供してくれる。そして、何度も繰り返し臨床と照らし合わせ、深く広く学び直していく必要がある。

副題である「脳性まひの治療示唆」は、本文の解説とは別枠で本書の随所に挿入され、貴重な治療アイデアを豊富に提供してくれている。たとえば、発達早期介入時の「情緒を安定させるための働きかけ」や「過剰刺激からこどもを

守る」、「『指しゃぶり行動』の改善」等は、育児援助で必ず保護者に伝えたい。また、探索活動を促す「『長い手』の育成」と「手指の自由度を広げる」ことや「座位の多様性を広げる」、「身体図式を発達させる工夫」等は、作業療法にも共通する重要な治療指針となる。

早期産にみられる脳室周囲の損傷や神経システム障害は、運動障害だけでなく視覚、聴覚、辺縁系のシステム障害を起こし、環境からの情報を最適に取り込むことが困難となり、運動と感覚の相互発達に大きく影響を及ぼす。第2章の「胎児期の発達」で、皮膚や筋の形成の未成熟な状態が詳細に示され、早期産児に含まれる自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性調運動症等の神経発達症群についても環境適応や活動と参加の困難さの背景要因として関連づけることができる。

胎児期から12カ月までの正常発達をあらためて学習していただき、子どもの姿勢・運動制御と感覚運動学習を最適化させ、作業を可能化するために本書をぜひお薦めしたい。

B5判 180頁 4,500円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357